令和６年度

研　修　集　録

秋田県立羽後高等学校

巻　頭　言

研修集録の刊行に寄せて

校　長　　佐　藤　哉　子

令和６年度「研修集録」の刊行にあたり、一言申し上げます。令和６年４月の着任から、１年が経とうとしております。令和６年度も、教職員は毎日の授業が研修の足跡となって、確実に経験を積み重ねており、それが生徒の健やかな心身の育成、確かな学力につながっていることに、感謝申し上げます。

さて、この１年の自分自身の研修はどうであったかを振り返ってみますと、大きく３つの研修がありました。１つ目は、いわゆる「新任校長研修」です。計３日間の研修では、さまざまなことが、講話・講義・演習によって進められ、かなりの量の資料が渡されました。それは、初心を忘れることのないよう、時折手に取るものであろうと解釈しています。やはり、毎日の実践こそが経験の積み重ねとなり、学校運営の中で生徒、職員にとって最善の判断をしていくものと思っています。さらに、７月上旬には、「職階別中央研修」が茨城県つくば市で行われ、計６日間の研修に参加いたしました。こちらは、宿題があり、当然ながら初の経験でしたので、参加前のストレスはそれなりのものがありました。しかし、参加初日からその不安は払拭され、全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の校長との対話や交流に、時間を忘れるほど語り合うことができた貴重な研修となりました。

２つ目は、羽後町のご支援により実施できた「ＳＦＣ研修」です。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの長谷部葉子研究会の皆様、そして本校１年生が主の研修でありましたが、このたびは私も参加を希望いたしました。はるか四半世紀以上の年月を経て、大学キャンパスに入った時の高揚感は、気分だけ学生になったような心持ちでした。短い時間ではありましたが、生徒と一緒に文学の講義を一部聴講することができました。なかなかものを教わることが少なくなった私にとっては、学ぶことの楽しさを再発見でき、またひとつ新しい扉が開いたような感覚でした。

そして、３つ目が、私がこのことを続け、半世紀となる「書道」です。好きなことであり、得意なことであり、自分の職業にも大いに関連していることは、本当にありがたいことです。しかし、しかし、これがまた１番苦しい研修でもあります。長く続けていれば、書けるようになるかというとそうもいかない、誰かのまねをしたところで、オリジナリティに欠ける、何かを創り出す、何かを突き詰めるには、日々の研鑽が必要になるのだと思います。

私たち教員は特殊な職業にあります。自己研修を積み重ね、磨いていく先には、必ず生徒がいる、生徒自身もただそこに存在しているのではなく、私たち教員からの刺激を求め、成長したいと願っているはずです。そのような教員との出会いに応えられるように、たとえ億劫でも、窮屈でも、苦しくても研修を続け、学ぶ喜びを共有していきたいと思っています。

目　　次

巻　頭　言

「研修集録の刊行に寄せて」　・・・・・・・・　校長　佐藤　哉子

1　各教科の重点目標・具体的実践事項・改善点および次年度への課題

① 国語　②地歴公民　③数学　④理科　⑤保健体育
⑥ 芸術　⑦英語　⑧家庭　⑨情報　⑩商業　・・・・・・・　1

2　相互授業参観・指導主事等訪問研究授業・協議会

・令和６年度　授業研修について　・・・・・・・・・・・・・・　１１
・相互授業参観のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
・指導主事等訪問　研究授業・協議会　開催要項　・・・・・　１５
・数学科学習指導案　・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　睦美　１７
・商業科学習指導案　・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　悠也　１９
・数学科研究協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
・商業科研究協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

3　研修講座

・Ａ－１７　実践的指導力向上（８年目）研修講座
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・松井　智彦　２７
・Ａ－３４　高等学校新任学年主任研修講座
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小松　千明　２８
・Ａ－４０　高等学校新任道徳教育推進教師研修講座
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・栗林　幸悦　２９

4　本校普通科デジタル探究コースの取り組み

デジタル探究委員会　３０

1　各教科の

・重点目標

・具体的実践事項

・改善点および

次年度への課題

①国語　②地歴公民　③数学

④理科　⑤保健体育　⑥芸術

⑦英語　⑧家庭　⑨情報　⑩商業

令和６年度　分掌・学年・教科（　国語科　）

記入者（　奥山　栄子　）

１　今年度の重点目標

（１）言語に関する基本的知識を身に付けさせ、表現や思考の基礎となる国語力を養う。
（２）伝え合う学習活動を通して、相手の考えを正しく理解し、自分の考えを適切に伝えることができる能力を育成する。

２　具体的実践事項

（１）・語句の意味調べや対義語・類義語の確認を行い語彙の強化を図った。また、週末課題を課して語彙を増やすよう努めた。
・ChromeBookを用いて重要語句や文法など既習事項の定着を図った。
（２）・ChromeBookを使いながら意見共有・発表内容のまとめをする場面を設定した。また、単元末に発展課題の全体発表の場を設定し、聞き手を意識したスライド・ポスターの工夫や発表の仕方・聞き方を指導した。
・自分の意見を書かせ全員に発表させる機会を多く設定することで、人前で話すことへの苦手意識を軽減できるよう努めた。

３　改善点及び次年度への課題

（１）・学習内容をChromeBookで確認することで、理解したつもりになる学習者もいた。個々の力に応じて定着を図る工夫が必要である。
・漢字の書き取りについては、筆記が不可欠である。
（２）・グループワークの時間を多く設定したが、活動の目的や話し合いのゴールなどの意識づけが不十分だった。
・一人ひとりが考える時間を十分に確保した上でグループワークに移り、意見をまとめさせるべきだった。
・身に付けさせたい力を明確にして、適切な学習形態を考えたい。

令和６年度　分掌・学年・教科（　地歴公民科　）

記入者（　栗林　幸悦　）

1　今年度の重点目標

（１）基礎的知識を身に付けさせ、自ら学ぶ姿勢を育成する。
（２）社会的事象を、複数の視点から捉えようとする姿勢を養う。

2　具体的実践事項

（１）電子黒板を資料集として活用した授業を展開できた。とくに、授業内容に関連する動画の視聴時間を増やした。
（２）一つの単元につき、一回はグループワークによる話し合いや学び合いの場面を設け、あらゆる事象に対して多面的なとらえ方ができるようにし、互いに発表することでさらに理解を深めることができた。また、定期考査では時事問題を一定数出題することを継続し、大々的に報道された出来事や事象など社会に目が向くように促した。

3　改善点及び次年度への課題

（１）授業で使用した資料やスライドは、クラスルームで配信するなど、欠席した生徒への配慮を行ったが、年間を通して100％実施できたわけではないので、継続性が必要である。
（２）クロームブックを継続的に使用してきたが、調べる場面が多く、自分の考えをまとめるなどの場面が少なかった。２年生の歴史総合において、修学旅行前の「班別自主研修プレゼンテーション」とその発表会は概ね好評だった。
（３）定期考査では、知識問題に偏ってしまうことが多かった。思考力を問う作問に努める必要がある。
（４）動画を生徒に提示する際、動画サイトを活用しているが、見せたい動画がなかなか見つからないことが多いため、ＤＶＤセットなどの教材の充実を図る必要がある。

令和６年度　分掌・学年・教科（　数学科　）

記入者（　佐藤　睦美　）

1　今年度の重点目標

（１）学習の仕方等の指導を通して学習意欲を向上させる。

（２）自ら学習する習慣を身に付けさせ、考える力と問題解決能力を育てる。

2　具体的実践事項

（１）全学年で、基本計算を問題とした週末課題・長期休業課題に取り組ませた。週明けの最初の授業では小テストを実施した。

（２）プリントやスタディサプリを利用し、問題演習を行った。

（３）就職試験対策として、一般常識やＳＰＩの問題演習を実施した。

3　改善点及び次年度への課題

（１）どの学年においても基本的な計算力が不足しているので、継続して取り組んでいく必要がある。一方、上位層が現状に満足せず、学習できるような手立ても今後考えていきたい。

（２）自ら学習する習慣を身につけさせることが、本校にとって長年の課題であると感じている。一般常識などの進路活動等を通して、必要性を感じさせるなどできるところからやっていきたい。

（３）四年制大学希望者への添削指導など、幅広い進路への対応についても考えていく必要がある。

令和６年度　分掌・学年・教科（　理科　）

記入者（　佐藤　絵里子　）

１　今年度の重点目標

（１）基本になる定理、法則の理解と定着を図る。
（２）観察や実験を通して、科学的思考力・表現力を育成する。

２　具体的実践事項

（１）中学校で学んだことを復習しながら、学習内容と関連付けて授業を進めた。また、ペアやグループで話し合ったり、教え合ったりすることで知識等の理解・定着を図った。
（２）学校敷地内の自然を観察し、身近な事物にも科学的な思考ができることに気づかせたり、観察した事物について表現させたりする機会を設けた。定期考査では学習内容と自身の生活に関わることについての作文を出題し、科学的思考力と表現力を育成しようとした。

３　改善点及び次年度への課題

（１）授業においては意欲的に学び、理解に努める生徒が多いものの、家庭学習ではテスト直前だけ取り組む生徒が多いため知識等の定着には至っていない。普段から取り組ませる工夫が必要。
（２）科学的な思考や表現をさせるためにはもっと基本的な定理や法則を十分に身につけさせなければいけないと感じる。また、苦手意識のある生徒は得意な生徒に任せてしまう傾向にあるので、苦手な生徒が取り組みたくなるような工夫をしたい。
（３）ワクワク理科実験教室を今後どうしていくか検討が必要。

令和６年度　分掌・学年・教科（　保健体育　）

記入者（　佐藤　大優　）

1　今年度の重点目標

（１）生涯にわたって継続的に運動に親しむ資質を養う。

（２）健康・安全について学習したことを実生活で活用する態度を育てる。

2　具体的実践事項

（１）選択種目（班）ごとに、自分たちの現状に見合った目標設定とその実現に向けた計画立案を行った。学習ノート（スプレッドシート）や日々の振り返り（フォーム）の記入についてはクロムブックを活用した。計画立案と振り返りは、目的を意識した活動につながっていた。

（２）感染症予防や生活習慣、環境問題など、身近な問題を自分たちの課題として意識できるようにするため、クロムブックを活用した意見交換（ジャムボード）やスライドによる発表を積極的に行った。

3　改善点及び次年度への課題

（１）継続的に運動に親しむ習慣を身に付けさせるためにも、気軽に取り組めるニュースポーツを取り入れることを考えていきたい。

（２）学習内容と実生活が直接リンクするような単元もあるため、実物で検証するなど、今後もより具体的な指導を心がけたい。

令和６年度　分掌・学年・教科（　芸術科　）

記入者（　佐藤　郁子　）

１　今年度の重点目標

（１）音楽の良さを味わい、教養について考える力を養う。
（２）音楽的に幅広い活動を通し生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。

２　具体的実践事項

（１）歌唱表現について
・姿勢や呼吸など、歌う際の基礎的な事項を毎回確認して身に付けさせた。
・歌詞から想像した情景を話し合い歌唱表現に結びつけた。
（２）器楽表現について
・和楽器（篠笛）の特性や基礎的な奏法を身に付け、日本の伝統文化に目を向けさせた。
・西洋楽器の器楽アンサンブルでお互いの音に合わせて演奏する難しさと楽しさを体感させた。
（３）鑑賞について
・日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽などの感想をクラスで共有し文化の多様性について考えさせた。
・曲から受けたイメージを言語化し発表した。
・プリントの他、カフートやフォームで授業の振り返りを行い知識の定着をはかった。

３　改善点及び次年度への課題

（１）歌う楽しさを自覚させ、声を出すことへの抵抗感を解消する。
（２）楽典基礎知識を繰り返し復習させる。
（３）正解の無い問題についての意見交換を活発にして思考を深める。

令和６年度　分掌・学年・教科（　英語科　）

記入者（　髙橋　潤　）

1　今年度の重点目標

（１）自分の考えや気持ちをその場で考えて伝え合うことができる力を育てる。
（２）基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、資格取得に努める。

2　具体的実践事項

（１）各レッスンで自分の考えなどをまとめる活動を取り入れ、ペアやグループで発表させる活動を多く取り入れた。
（２）英語検定は、意識向上のため、３級以上の受験としている。
（３）スタディサプリや週末課題、自学ノート、小テストなどを行い、基礎学力向上と自学の習慣の育成に努めた。
（４）ＡＬＴとのＴＴで英語を使用する場面を設定したり、CAN-DOリストに基づいて計画的にパフォーマンステストを実施した。

3　改善点及び次年度への課題

（１）基礎学力の定着に向けて、学習習慣の育成に努める指導を継続するとともに、既習事項を用いたoutputの機会を積極的に活用して定着を図る。
（２）県主催の英検ＩＢＡの結果より、英語検定の３級で合格できる力をもつ生徒が年々減少していることが判る。中学の既習事項の取りこぼしが多いように感じられるので、CAN-DOリストの到達目標も変更する必要を感じている。
（３）パフォーマンステストでは、特に２年生に個人差があり、いわゆる「できる生徒」への学習満足度を上げられるような目標設定を考慮しなければならない。

令和６年度　分掌・学年・教科（　家庭科　）

記入者（　冨谷　朋子　）

１　今年度の重点目標

（１）自立して生活を営むために必要な知識と技術を習得させる。
（２）多様な価値観を認め合い、協働して家庭生活や社会生活を営む力を育てる。

２　具体的実践事項

（１）家庭基礎では学習の記録、専門科目では調理や被服製作の記録をスライドに蓄積していく形にし、生徒が学習内容を振り返り、技術の上達を実感できるようにした。
（２）事例や画像・動画資料を提示し、生活体験の不足を補いながら授業を進めた。
（３）道の駅でのクッキー製造や研究発表・販売会、にしもないこども園での保育体験など、社会の中で他者とかかわりながら学ぶ機会を充実させた。

３　改善点及び次年度への課題

（１）生活文化コースの専門科目を活かして就職・進学する生徒が数名しかいないため、科目を見直したい。
（２）来年度から現在の被服製作・食物調理技術検定４級の内容が３級になる。１年生で食物調理技術検定３級、３年課題研究で被服製作技術検定３級に挑戦させることも可能になるので検討したい。

令和６年度　分掌・学年・教科（　情報科　）

記入者（　照井　雅孝　）

１　今年度の重点目標

（１）デジタル社会を生き抜くための基礎・基本的な知識や技術を習得させる。
（２）情報機器等を効果的に活用し、コミュニケーション能力や情報の創造力・発信力等を養う。

２　具体的実践事項

（１）デジタル探究支援事業としてさまざまな講義を実施した。
（ＺＯＯＭ、ドローン、ＷＥＢサイト、メタバース、ＶＲゴーグル、プログラミング、生成ＡＩなど）
（２）インターネット、スマートフォン、ＳＮＳ、情報モラルなど、生徒が生活の中で接している事項について、様々な問題点や考え方の多様性を授業内で共有することができた。
（３）情報処理検定、ビジネス文書実務検定等の資格取得に向けて、しっかりと取り組むことができた。

３　改善点及び次年度への課題

（１）スマートフォン、ＳＮＳ、タブレット等の活用のしかた、モラル教育を図る必要がある。
（２）情報に関わる様々な知識や技術について、３年間を見通した形で基礎的な内容からより具体的かつ広範囲にわたって身に付けさせたい。
（３）パイソンによるプログラミング教育について、学習内容や指導方法等を検討・研究していきたい。
（４）新学習指導要領に合わせた学習内容・授業展開・学習評価等を検討するとともにより良い実践を図っていきたい。

令和６年度　分掌・学年・教科（　商業科　）

記入者（　照井　雅孝　）

１　今年度の重点目標

（１）ビジネス社会の一員としての心構えや、自ら学ぶ姿勢や態度を育てる。
（２）商業に関わる基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、各種検定の資格取得に努める。

２　具体的実践事項

（１）実社会で必要とされる心構えや知識・技術の習得に向けた授業を行うことができた。（２年の簿記にて研究授業を実施）
（２）電卓・情報処理・簿記・ビジネス文書の各検定の資格取得を目標にして、ＩＣＴ機器を活用しながら、効果的に学習指導することができた。
（３）課題研究では、昨年度まで行ってきた「羽後学」をもとに、地域の活性化や地域貢献を軸に学習活動を実施した。

３　改善点及び次年度への課題

（１）各種検定について、受験級が上がることで、生徒の意識や学習内容の定着率が下がらないよう、今後も授業の工夫・改善を図っていきたい。
（２）卒業後、実社会で即活用できるような知識や技術等、より実践的な学習の場を提供できるようにしたい。
（３）新学習指導要領に合わせた学習内容・授業展開・学習評価等を検討するとともにより良い実践を図っていきたい。

2　・相互授業参観
(9/10～19)

・公開授業研究会
(11/13)
研究授業
教科協議会

令和６年度の授業研修会について

研修図書情報部

１．相互授業参観について

①期　　間　　９／１０（火）～１９（木）

②実施形態　　・全ての教員が他の先生方の授業を２コマ以上参観する。
・参観に際しては、前もって参観したい授業の先生にお願いする。
・見学後、「授業参観シート」に良かった点・参考になった点や感想等を記述して授業者の方に渡す。
・この「授業参観シート」は、研修・図書情報部の「相互授業参観」フォルダにも保存する。

※　「授業参観シート」は次のフォルダにあります
分掌用フォルダ→研修・図書情報部→１研修部→相互授業参観

授業者へ

授業参観シート

月　　日　　曜日　　校時	年　　組 教科名：

授業者：　　先生　　参観者：

よかった点 参考になった点	・ ・ ・ ・
感　想　等	・ ・ ・

２．公開授業研究協議会について

①研究主題

「生徒が主体的に学びに向かい、課題解決力を身に付けることができる授業の実践」

②期　　日　　１１／１３（水）

５校時…研究授業　６校時…教科別協議会　　（全体会はなし）

③研究授業の実施教科　　数学、商業

※　校内の先生方は、どちらかの教科の研究授業・協議会に参加
県南地区の高等学校、羽後・湯沢市内の小・中学校にも案内

令和６年度　相互授業参観のまとめ

実施期間：９月１０日（火）～９月１９日（木）

【国語】　　３年　論理国語　　指導者　　奥山

参考になった点

・生徒の心をつかむ授業のメリハリ
・ノートの使い方の工夫
・集中力を配慮した時間配分と授業内容の構成（導入の一般常識語句、ことわざの復習、読む、書く、思考→発表という流れ）
・漢字の書き取りを黒板に書かせる活動を見て、自分の授業では生徒が黒板に出て書くことがまったくないことに気づきました。
・授業に臨む姿勢やルールをきちんと守らせながらも、クラスメイトと一緒に楽しく学べる授業でした。テンションを上げさせたり、生徒達の発言を上手に拾って褒めたり、意欲を引き出す授業でした。

感想等

・生徒たちがとても楽しそうに授業を受けていて驚きました。自分の高校時代の国語は堅苦しいイメージだったので、あんなに和気藹々とした授業がうらやましいです。
・わかりやすく、生徒に無理なく浸透する授業だと思いました。
・先生の冗談に生徒もちゃんと反応できているし、確固とした信頼関係ができているのも見て取れました。さすがだと思いました。
・１時間の授業の中で問題を解く、辞書で調べる、黒板に書く、読む、考える、発表するなど、さまざまな活動にテンポよく取り組ませ、メリハリのある授業をされていました。自分の授業では１時間の授業内容が単調で、解説ばかり、調べ学習ばかりの日は飽きたり、集中力が切れたりしているので、時間を区切ってさまざまな活動を取り入れるようにしてみたいと思います。

【国語】　　２年　文学国語　　指導者　　岡本

参考になった点

・chromeブックのソフトウェアの活用方法
・FigJamを用いた授業…グループごとの意見等を４象限マトリックスに入力し、発表を行っている。

・グループ活動…復習の活動を各グループで実施している。
・授業の展開…復習、問題提示、まとめ、発展的な活動、振り返りが１時間の授業の中にあり、スムーズに行われている。

感想等

・教師側からの一方的な解説で終わる授業ではなく、生徒が主体的に取り組んでいたので、好感が持てた。
・生徒らがchromeブックを用いて、漢字の意味を調べたり、FigJamへの書き込みを行ったり、学習内容の共有ができていたりなど、自由自在に使いこなしていることに驚いた。また、それぞれの生徒が生き生きと授業に参加しており、有意義な効果的な授業だと感じた。

【理科】　　２年　生物基礎　　指導者　佐藤絵

参考になった点

・スライドと対応したプリントがシンプルで書き込みやすく、分かりやすかった。
・電子黒板に画像を提示しながら説明したり、黒板に補足説明を書いて説明したり、電子黒板と黒板を上手に使い分けていた。
・先生の問いかけに安心して答えている生徒が多く、間違いを恐れずに参加できる雰囲気、先生との関係が良かった。

感想等

・ICTの使い方を見直したいと思いました。電子黒板に映したスライドやプリントに電子ペンで空欄補充をしたり、補足説明を書いていたので生徒は見づらかったと思います。また、講話のようなスライドに沿った説明とスライドの一部を書き写す授業では退屈そうにしているので、ICTを活用しても生徒と双方向の授業になるように改善したいと思いました。

【家庭】　　２年　保育基礎　　指導者　富谷

参考になった点

・司会進行も生徒に行わせて、主体的に活動させていること。
・生徒にも、発表（絵本の読み聞かせ）に対する講評を言わせていること。
・生徒一人ひとりの特徴を踏まえて、うまく指導していること。

感想等

・外部講師の先生方が生徒たちの「よかった点」を褒めてくれていることで、次回への意欲につながると感じました。
・私が担当している教科では、なかなかよさを発揮できない生徒たちが生き生きと活動していました。指導者からのアプローチをもっと工夫していかなければ、と反省しました。

【総合的探究】　　１年　羽後学　　指導者　　慶應義塾大学ＳＦＣ

参考になった点

・寄り添う姿勢は毎回、素晴らしいと思います。
・デジタル機器を利用しているところはいいと思っています。
・生徒が生き生きとしているので面白いのだろうなと思います。

感想等

・大学生が全体に説明するときは、学生だなという印象をどうしても受けますが、グループワークでは親近感を感じやすいのかなと思いました。だから、生徒たちがどんどん自分から言葉を発しているのだなと思います。

令和６年度　公開授業研究会　開催要項

１　主　　題　　「生徒が主体的に学びに向かい、課題解決力を身に付けることができる授業の実践」

ＩＣＴ機器（タブレットや電子黒板など）の利用のほか、さまざま学習形態を取りながら、生徒が主体的・対話的に学習活動に向かい、自らの課題解決能力を向上させることができるよう工夫を図る。また、授業展開において、一人一人に目を配り、個々の生徒に適した「問いかけ」や「発問」を工夫する。

２　実施教科　　数学科、商業科

３　期　　日　　令和６年１１月１３日（水）

４　日　　程　　＝＝＝４５分授業で５校時まで授業＝＝＝

１３：５５～　　ＳＨＲ・清掃・準備（当該クラス以外の生徒は放課）
１４：１５～１４：３０　受　　付
１４：３０～１５：２０　公開研究授業
１５：２０～１５：５０　（移動・準備）
１５：５０～１６：３０　教科別授業研究協議会

５　授業一覧

教　科	科　目	単　　元	学年・組	授業場所	授 業 者
数学科	数学Ⅰ	第２章　２次関数	１年Ｂ組	１Ｂ教室	佐藤　睦美
商業科	簿　記	第１２章　決算 決算整理事項	２年ＡＢ組 ビジネスコース	情報処理室	佐藤　悠也

６　授業研究協議会

教　科	協議会場	司 会 者	記 録 者
数学科	会　議　室	菅原　靖彦	岡本　　優
商業科	図　書　室	照井　雅孝	佐藤　都子

７　会　次　第

①　授業者から感想・課題等
②　授業参観者から感想・質問・意見等
③　今後のＩＣＴ活用のあり方について　（活用方法、課題、展望などを）

令和６年度　公開授業研究会　参加者名簿

期日：１１月１３日（水）

番号	所属名	氏名	参観教科	研究協議会	備考
1	大曲工業	阿部亮介	数学	○	
2	矢島高校	佐藤文明	商業	×	
3	湯沢翔北	齋藤良樹	数学	×	
4	湯沢翔北	高橋雅典	商業	○	
5	湯沢翔北	高城新	商業	○	
6	高瀬小	佐藤宏紀	数学	○	
7	大曲農業	長浜広大	数学	○	
1	校長	佐藤哉子	―	―	
2	教頭	米川覚	―	―	
3	教諭	照井雅孝	商業	司会	
4	教諭	奥山栄子	数学		
5	教諭	高橋潤	数学		
6	教諭	菅原晴彦	数学	司会	
7	教諭	小松千明	数学		
8	教諭	佐藤大優	商業		
9	教諭	富谷朋子	商業		
10	教諭	栗林幸悦	商業		
11	教諭	佐藤睦美	数学	授業者	
12	教諭	佐藤絵里子	数学		
13	教諭	松井智彦	商業		
14	教諭	佐藤悠也	商業	授業者	
15	臨時講師	佐藤郁子	商業	記録	
16	臨時講師	岡本優	数学	記録	

数学　11名

商業　10名

数学Ⅰ　学習指導案

実施日：令和６年１１月１３日（水）
対　象：秋田県立羽後高等学校１年Ｂ組
授業者：佐藤　睦美

１　単　元　名　　数学Ⅰ　第２章　２次関数　第２節　２次関数の値の変化

２　単元の目標　　２次関数の値の変化について理解し，具体的な事象に関連した課題の解決に２次関数を活用する力を培う。

３　指導に当たって

（１）単　元　観

２次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し，最大値，最小値を求めることができるようにさせる。また，日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ，問題を解決する力を養う。

単元計画　　第１節　２次関数のグラフ　　１１時間
　　第２節　２次関数の値の変化　　１１時間（本時４／１１）

（２）生　徒　観

男子１２名女子８名のクラスである。基本的な計算を苦労している生徒も数名おり，数学に対して苦手意識を持っている生徒が多いが，どの生徒も授業では意欲的に取り組み，理解しようと努力している。
単純に楽な方に流されやすいところがあるので，安易に考えず確かな理由を基に考える力を養いたい。

（３）指　導　観

２次関数が最大値・最小値をもつことを理解し，グラフから考察することができることを理解させたい。また，日常の事象についても数学的に考察できることを認識させたい。

４　本時の学習活動

（１）本時の学習目標　　２次関数を用いて最大値を求めることができる。

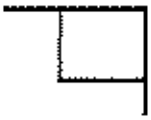
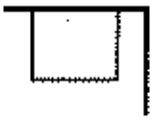
＜評価規準＞【知識・技能】
２次関数の定義域に制限がある場合に，最大値を求めることができる。

【思考・判断・表現】
日常における最大・最小の問題の解決に，２次関数を活用することができる。

（２）本時の指導に当たって

文章題から２関数の式を作り最大値を求めることで，安易に感覚にたよるのではなく，確かな答えを導くことができるということを認識させたい。

（3）指導過程<①知識・技能　②思考・判断・表現　③主体的に学習に取り組む態度>

段階	学　習　内　容	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	（一斉）本時の活動についての確認をする		
	学校の校舎の壁面を利用して花壇を作ることになった。壁面以外の部分はフェンスで囲んで長方形の花壇を作る。		
	目標：花壇の面積の最大値を求めることができる		
展開 25分	課題１）長方形の花壇の縦と横の２辺を校舎の壁面として，残りの２辺を長さ１２mのフェンスを使って囲む。花壇の面積を最大にするには？ 		
	（一斉）具体的な数字で面積を求め，予測する （一斉）縦辺をxmとして式を立てる （一斉）２次関数の最大値・最小値の復習をする （個別）グラフを書き最大値を求める （一斉）花壇の形が正方形であることを確認する	・囲い方は無数にあることを伝える ・２次関数の式ができることを確認する ・グラフから最大値・最小値を読み取らせる ・xの値の範囲を確認する ・グラフが書けない生徒にはPCでグラフを提示して最大値を考えさせる	・既習事項が身についているか① ・２次関数を活用できるか②
	課題２）日当たりが悪かったので、場所をずらした。長方形の花壇の横の１辺を校舎の壁面として，残りの３辺を長さ１２mのフェンスを使って囲む。花壇の面積を最大にするには？ 		
	（一斉）花壇の形の予測をする （一斉）縦辺をxmとして式を立てる （個別）グラフを書き最大値を求める （一斉）花壇の形について確認する	・xの値の範囲を確認する ・グラフが書けない生徒にはPCでグラフを提示して最大値を考えさせる	
まとめ 5分	（一斉）日常の事象について関数を用いて考察することで正確な答えを導き出すことができることを確認する	・予測したことが正しいか否かを数学的な活動で正確に判断できることを理解させる	

（4）本時の評価

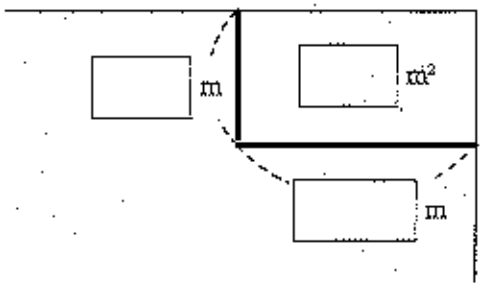
評価項目	評価の観点［判断基準］		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる［A］	概ね満足できる［B］	
知識・技能	２次関数の最大値を求めることができる	２次関数の最大値を判断できる	式を変形し頂点や軸を確認する
思考・判断・表現	２次関数を利用し，課題を解決できる	課題の解決に2次関数を利用することがわかる	変数を用いて式を作ることができることを確認する

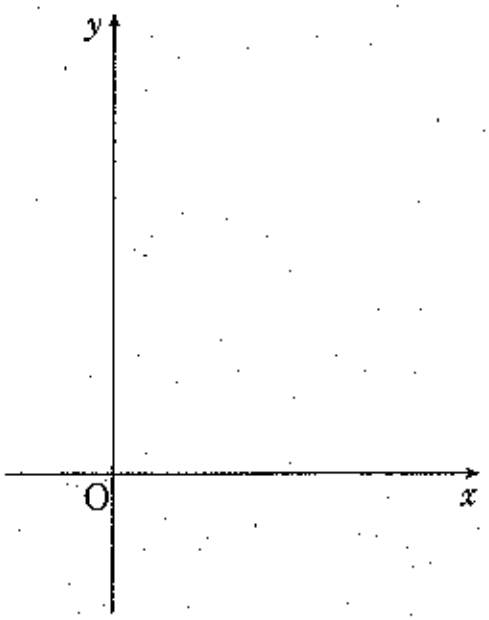
数学Ⅰ　　目標　花壇の面積の最大値を求めることができる

(　　)組(　　)番　名前(　　)

学校の校舎の壁面を利用して花壇を作ることになった。壁面以外の部分はフェンスで囲んで長方形の花壇を作る。

1　長方形の花壇の縦と横の２辺を校舎の壁面として，残りの２辺を長さ１２mのフェンスを使って囲む。花壇の面積を最大にするには、縦の長さは何m のときにすればよいか。またどのような図形のときか。





〈答え〉

花壇の面積を最大にするには　縦の長さが＿＿＿＿の＿＿＿＿形＿＿とき であり，その最大値は　＿＿＿＿である。

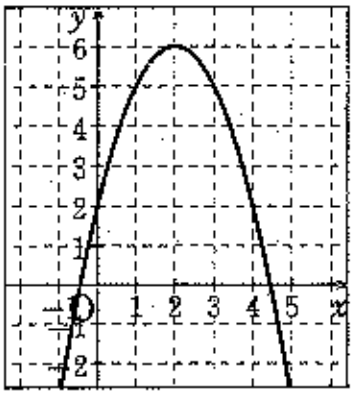
(ウラ)

！確認！　上に凸のグラフの最大値の話　（今回は最小値は考えない）

yの値が最も大きくなるとき，その値を，関数の［　　］という。

＜ x の値の範囲が書かれていない場合（全ての実数のとき）＞

(1)　$y=-x^2+4x+2$
　　$=-(x-2)^2+6$

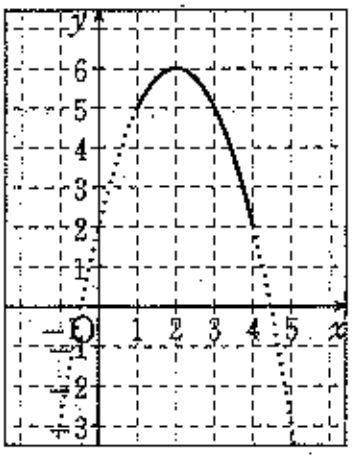


グラフから
最大値は　$x=$［　　］のとき［　　］

＜ x の値の範囲が書かれている場合（ x の値の範囲を［　　］という）＞

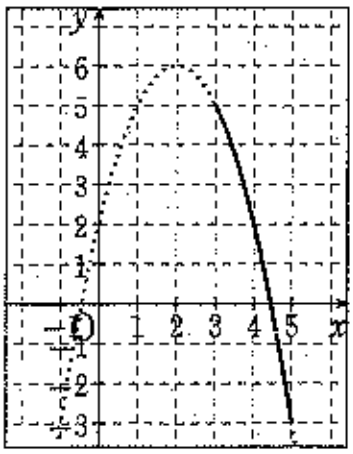
式は同じく　$y=-x^2+4x+2$
　　$=-(x-2)^2+6$

(2)　$1\leqq x\leqq 4$



グラフから
最大値は
$x=$［　　］のとき［　　］

(3)　$3\leqq x\leqq 5$

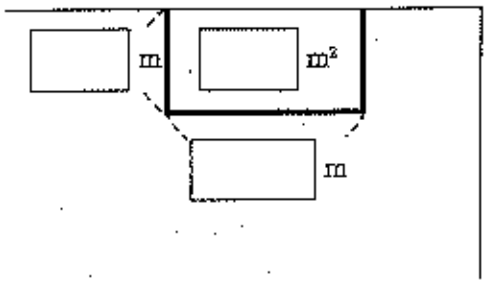


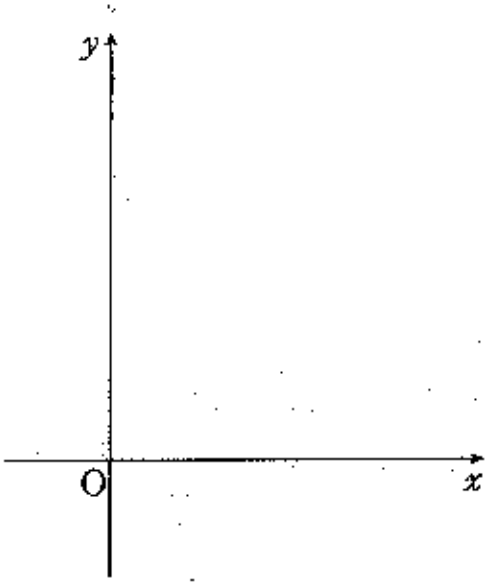
グラフから
最大値は
$x=$［　　］のとき［　　］

数学Ⅰ　　目標　花壇の面積の最大値を求めることができる

(　　)組(　　)番　名前(　　)

2　日当たりが悪かったので、場所をずらした。長方形の花壇の横の１辺を校舎の壁面として，残りの３辺を長さ１２mのフェンスを使って囲む。花壇の面積を最大にするには、縦の長さは何m のときにすればよいか。またどのような図形のときか。





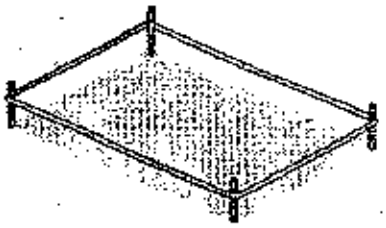
〈答え〉

花壇の面積を最大にするには　縦の長さが＿＿＿＿の＿＿＿＿形＿＿ときであり，その最大値は　＿＿＿＿である。

(サ7)

（問題）

長さが 12 m のロープで長方形の囲いを作る。
囲いの面積が最も大きくなるのは，正方形の囲いの場合かどうかを調べなさい。



商業科「簿記」　学習指導案

秋田県立羽後高等学校
授業者　　佐藤　悠也

実施日時　　：令和６年１１月１３日（水）５校時
対象生徒　　：デジタルビジネス探究コース２年生　２０名（男子１６名　女子４名）
使用教科書：簿　記（３単位）
使用教材　　：教科書「高校簿記」（実教出版）　問題集「日商簿記３級問題集」（大原出版）
　　自作プリント

１　単元名　第１１章　　固定資産の記帳

２　単元の目標
固定資産に関する種類と意味を理解させるとともに，帳簿における固定資産の価額がどのように変化していくのかを理解させ，記帳に関する知識と技術を身に付ける。

３　指導に当たって
（１）　生徒観
・授業中の雰囲気は、非常に和やかである。発問に対してしっかりと答え、答えを見いだせない生徒には、周囲が手助けをする行動が見られる。１学期が過ぎ、仕訳や記帳に苦手意識を持つ生徒も出てきている。適宜声かけを行い、学習状況を把握しながら、意欲的に取り組む意識を持たせている。

（２）教材観
・本単元は、決算整理、精算表、帳簿決算など決算手続き全体の流れを学習する単元である。決算整理（売上原価の計算、貸し倒れの見積もり、減価償却費の定額法）の意味と記帳方法を習得し、精算表、財務諸表の作成ができるようになることを目標とする。

（３）指導観
・指導に当たっては生徒の実態を踏まえ、ＩＣＴ活用とグループ学習の場の設定により、クラスの仲間同士のコミュニケーションを図る活動の場面を通し、思考力、判断力、表現力等を育てる。また、ＩＣＴ活用において協働する機会を設けることで、本単元に関する帳簿作成、決算整理の知識・技術の確実な定着を図りたい。

４　単元の指導計画　（総時数３時間）
　　第１１章　　固定資産の取引　　・・・３時間（本時２時間目）

５　本時の目標
①固定資産の種類と意味を理解する。
②企業の帳簿では、固定資産がどのように変化するかを理解する。

（１）本時の評価基準

知識及び技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
固定資産の意味とその種類、およびそれぞれの具体例について理解しており、固定資産の取得と売却に関する基本的な取引及び仕訳について理解している。	固定資産の取得及び減価、売却に関する取引を簿記特有のルールから考察し、適切に判断し仕訳しようとしている。	固定資産の意味や種類、固定資産に関する取引、および固定資産台帳について自ら学び、各取引の仕訳の方法を、主体的かつ協働的に身につけようとしている。

（２）本時の評価基準

A （十分満足）	固定資産の取得及び減価、売却に関する取引を理解している。 （知識・技術）（学びに向かう力・人間性）
B （おおむね満足）	教科書等を見たり、周りと相談したりしながらある程度取り組もうとしている。 （知識・技術）（学びに向かう力・人間性）

C （努力を要する）	他者の意見を聞いたり、解説を参考にしたりするが、固定資産についての理解することができない。　（知識・技術）（学びに向かう力・人間性）

（３）「おおむね満足できる」状況に至らなかった生徒に対する指導手立て
・授業の振り返り動画を見ながら、ヒントを与え、説明する。
・授業外の時間を利用して個別指導を行う。

６　学習の展開

時間区分	生徒の学習活動	指導内容及び教師の活動	評価の観点
導入 ３分	・本時の流れを確認する。 ・目標を記入する。 1　流動資産と固定資産の分類について ・前回の授業の確認をする。	・本時の授業の説明や配布物を確認する。 ・本時の授業内容を確認し目標を記入させる。	
展開 ３８分	2　固定資産の取引 ・「考えてみよう①」について考える。 ・グループで意見交換し、グループとしての答えを決まる。 ・グループごとに発表する。 ・固定資産の取引について考える。 ・固定資産の取得について考える。 ・固定資産の減価について考える。 ・固定資産の売却について考える。 ・「考えてみよう②」について計算する。 ・「考えてみよう①」について再計算をする。	・建物の帳簿価額、売却価額を予想させる。 ・自分の意見を基に他の生徒と相談し、グループとしての意見をまとめさせる。 ・ホワイトボードに金額を記入させ、その理由を説明させる。 ・固定資産に関する３種類（取得及び減価、売却）の会計事実について考えていくことを説明する。 ・固定資産として帳簿に記録する金額は、購入時にかかったすべての金額となることを理解させる。 ・付随費用について説明する。 ・１年以上にわたって使用することをおさえる。 ・帳簿価額がどのような考え方で費用になるかを説明する。 ・耐用年数、残存価額についての語句はこれから頻出するので、理解できるよう丁寧に説明する。 ・毎期の償却額が定額であることをおさえる。 ・一連の流れを確認して正しく計算するよう指示する。 ・計算の条件として、耐用年数 50 年、残存価額は取得原価の 10％と設定する。 ・10 年後の帳簿価額がいくらになるかを計算させる。 ・自分たちの売却価額だと利益が算出されたのか、損失が算出されたのかを考えさせる。	・固定資産の種類と意味を理解している。（知識・技術） ・自分の考えをワークシートに記入し、他者と意見交換して考えを深めている。（思考・判断・表現） ・固定資産の取得及び減価、売却に関する取引を簿記特有のルールから考察している。（思考・判断・表現）
まとめ ９分	・本時の学習内容を確認する。 ・ワークシートを提出する。	・流動資産と固定資産の違いについて再確認する。 ・固定資産を取得したときの帳簿価額について再確認する。 ・固定資産がどのように減価していくのかについて再確認する。 ・固定資産の売却は利益が算出される場合と損失が算出される場合があることを再確認する。 ・ワークシートを回収する。	

§1　固定資産の取引

あなたは商品売買業の経営者です。経営をしていくためには、どんなものが必要ですか？

予想解答	お金→現金	預金→当座預金	商品→商品	建物→建物
	パソコン・プリンター→備品	机・椅子→備品	車・バイク→車両運搬具	土地→土地
	従業員→給料	広告→広告料	印紙→消耗品	事務用具→消耗品

その他として、電気代・水道代・ガス代→水道光熱費　電話代→通信費　家賃→支払家賃　などが考えられる

流動資産の勘定科目

現金・当座預金・商品・消耗品

固定資産の勘定科目

備品・建物・車両運搬具・土地

流動資産と固定資産を分類する基準

（営業循環基準）　日々の営業活動に直接関係する資産を流動資産とする。

（1年基準）　1年以上使用する目的で所有する資産を固定資産とする。

考えてみよう①

店舗用の建物を購入しました。
建物の代金　¥5,000,000　　改装費　¥　550,000
仲介手数料　¥　250,000　　登記料　¥　200,000　を支払いました。

Ⓐ建物として記帳する金額はいくらになるでしょうか。　Ⓐ ¥＿＿＿＿＿＿

Ⓑこの建物を10年間使用して売却しました。あなたは、いくらであれば売却しますか？

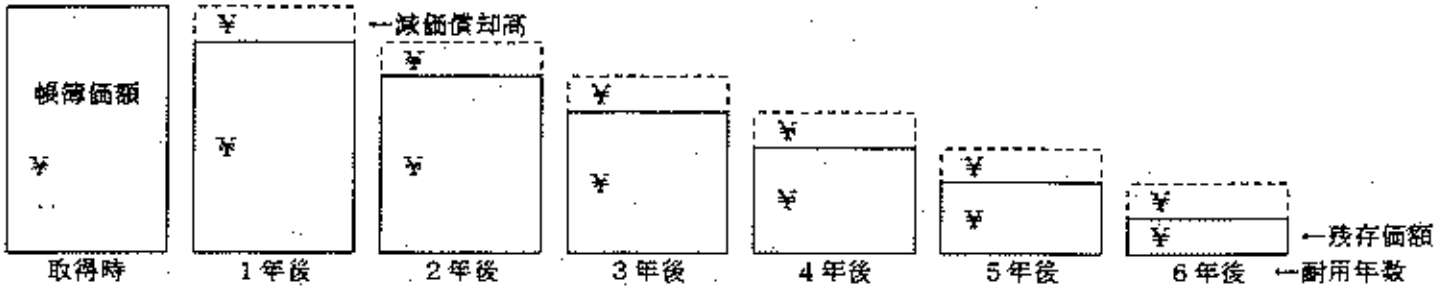
Ⓑ ¥＿＿＿＿＿＿

固定資産の取引

1．取　得

2．減　価

●減価の考え方　（備品　¥300,000　耐用年数６年　残存価額は取得原価の10%）



３．売　却

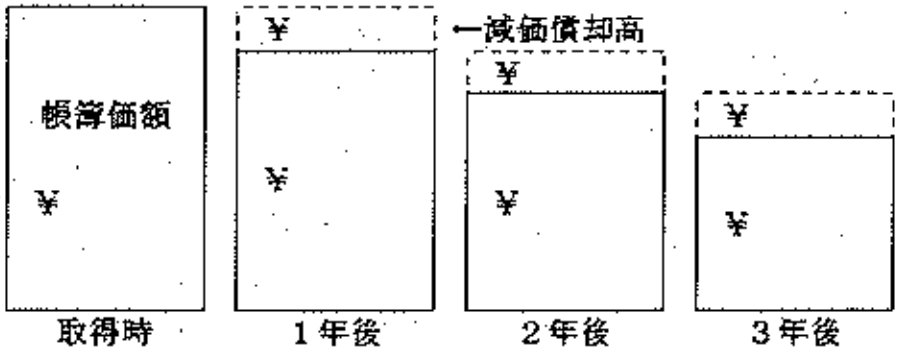
考えてみよう②

営業用の自動車（車両価額　¥2,500,000　　諸経費　¥500,000）について，３年間使用した後　¥1,200,000で売却しました。それぞれの価額を計算してみよう。ただし，減価償却の計算は，耐用年数６年，残存価額は取得原価の10%とする。

購入時の帳簿価額	３年間の減価償却高の合計	３年後に売却すると
¥	¥	¥　　の　（　利益・損失　）

●減価償却費（車両運搬具 ¥2,500,000 諸経費 ¥500,000
耐用年数６年 残存価額は取得原価の10%）

以下の図を使用して考えてみよう！



チャレンジ　考えてみよう①について（応用編）

耐用年数 50 年 残存価額は取得原価の 10%とすると、10 年後の建物の帳簿価額はいくらになるか？

店舗用の建物を購入しました。

建物の代金 ¥5,000,000 改装費 ¥ 550,000

仲介手数料 ¥ 250,000 登記料 ¥ 200,000 を支払いました。

¥＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

令和６年度　公開授業研究会　数学科研究協議会　　１５：５０～１６：３０（会議室）

授業者　佐　藤　睦　美
司　会　菅　原　晴　彦
記　録　岡　本　　優
参加者　阿　部(大曲工業)、長　浜(大曲農業)
佐藤宏(高瀬小)
高橋潤、佐藤絵、奥　山、小　松

1　授業者から感想・課題等
・本当は二次関数の話の最後の部分という設定で授業を作っていたが、２次関数の最大最小の所までいかず、平方完成で終わっていた。グラフをかかせると時間がかかってしまうため、今回はChromeでグラフを見せた。
・今日１番やりたかったのは、「必ずしも正方形じゃない」という所。意図通りに生徒が動いてくれた。
・軽く発問するとすぐ答えてしまう生徒もいる。数学は得意なので、なるべく止めずに活かす方向。
・できない子が多く、平方完成も前の時間にやったものの忘れたようで、時間がかかってしまった。
・最大最小の話なのになぜ平方完成するのかという所に全くふれないままやっていたことが反省点。

2　授業参観者から感想・質問・意見等
【潤先生(本校)】
・花壇の話から今日指導することに落とし込んだ所は、生徒の実態に合わせたいい着目点だった。
・事前練習してもできないということは、個人個人のアウトプットの回数が足りない。アクティブラーニングの視点からもどれだけ生徒が個人で考えるか、練習したかという所に比重が置かれる。本校の場合、ノープランでグループ協議に入る生徒もいる。今日の授業ではまず個人で考えさせて、それから他の人に…というステップを踏んでいてよかった。
・ソフトを使いこなしている。仕込みにどれくらいの時間をかけた？（◁１ヶ月）佐賀県ICT公開授業では、教師が時間をかけて仕込んだソフトを使っても、生徒がわからないと発言。仕込みの教師の労力はなんとかならないか。トラブルがあると授業が止まるのがICTの怖い所。

【絵里子先生(本校)】
・予想では２次関数が苦手な生徒が多いと思ったが、睦美先生のもっていき方によって、生徒たちが自分でも考えようと頑張って取り組んでいた。もっていき方によって生徒も頑張って取り組んでくれるので、自分の授業でもやってみたい。

【奥山先生(本校)】
・入りが生徒にとって身近でわかりやすい。導入では生徒がみんな顔を上げて一生懸命見ていた。
・自分で考えて周りの人と確認するという順番だった。苦手な生徒が多いと思うが、ちょっとわかる生徒が苦手な生徒に教えて、苦手な生徒がさらに後ろの席の生徒に教えていた。人に教える達成感があり、良かった。
・ICTを使って、生徒が見て分かるようになっていた。
・生徒一人ひとりの特徴を踏まえて授業を進めている感じがあった。

【小松先生(本校)】
・普段の関係性がよく、リラックスしたいい雰囲気で授業を受けていた。
・ICTを使うとなるとかまえてしまい、必要がないのに無理やり使う感じになることもあるが、今回の授業は使うべくして使っていて参考になった。
・四則演算すらあやしい生徒もいる中で、上手くひろってあげている。
・わかる子がわからない子に教えるなど、ミニティーチャーとして機能している
・できる子の中には、浮きこぼれの生徒も出てくると思う。何か他の人に教えること以外で提供できないか。

【阿部先生(大曲工業)】
・導入のアニメーションで生徒の心をつかみ、課題把握や興味関心をもった状態にしていた。３個の形を見せて予想させ、小数で刻めばわからないから関数が必要になる…という、関数にする必要性まで誘導していく流れが上手で勉強になった。

・最大値まで習っていなかったからこそ、ICTを使ってグラフを見せることで最大値が視覚的にわかりやすくなっていた。
・関数という根拠があれば考察できることを体感できた授業。
・２０名クラス一人ひとりに目が届いている。個人への丁寧な指導がされていた。

【長浜先生(大曲農業)】
・授業の題材がさすが。プリント２枚目裏、教科書掲載の問題をどう理解させるか、段階的で身近な事象をきっかけにしていた。プリント１枚目裏の問題で教科書の確認をして、最終的に身近な事象の検証をするという流れが参考になった。
・たとえ仕込みをある程度やっていたとしても、時間内に定義域を確認させて、グラフをかかせて…というのは無理。GRAPESを使ってグラフをかけなくてもグラフを使える・グラフで考えることができるというのが、ソフトの凄さだと感じた。グラフにたどり着くのが難しい生徒にとってはいい手段。
・いつもプリント使って授業する？（<使ったり使わなかったり。ここ最近はノート。）
穴埋め、埋めなければいけないが所があれば主体的になる。通過点のあるプリントのつくり方を参考にしてみたい。

【佐藤先生(高瀬小)】
・導入の所で考えたくなる、必要感のあるしかけがあった。
・生徒たちに順に小さな質問をしていた。小さなステップで思考がつながり、みんなでやってる感じが有効だと思った。
・電子黒板が活用されていて、グラフや図が目の前で展開すると生徒の思考が止まらずわかりやすい。

【菅原先生(本校)】
・場面の設定が大事で、活用に繋がっていく。
・課題解決力を身につけるということに関して、個人で考えさせてグループへ…という形に、解決力を身につけさせる姿勢が授業の中に見受けられた。教えるリレーが問題解決力を身につけることに有効であった。
・短い中でたくさん組み込んでいるのが凄い。

3　今後のＩＣＴ活用のあり方について（活用方法、課題、展望など）
【菅原先生】
・電子黒板の操作に関して安定しない部分がある。

【睦美先生】
・パワーポイントでつくったものをスライドにすると動きがおかしくなるため、ビデオ変換したものをスライドに貼り付けしている。
・GRAPESについても全部ネット上でやった方が早いため使用した。GeoGebraの方が良かったが、縦横比が変えられず、使い慣れているGRAPESを使用。
・最初は最大最小を全部１セットにしていたが、修正。わざと余計なものが見えないようにしていた。

【潤先生】
・ソフトの互換性について、生徒がつくったものもずれることがある。悩みのタネである。

【睦美先生】
・具体物を渡して折るといった作業からスタートすることもできるが、一度持ったら遊び続ける生徒たちなので渡さなかった。見て納得できるようにアニメーションにした。
・書画カメラでうつして、電子黒板上で生徒に書かせることもしていた。

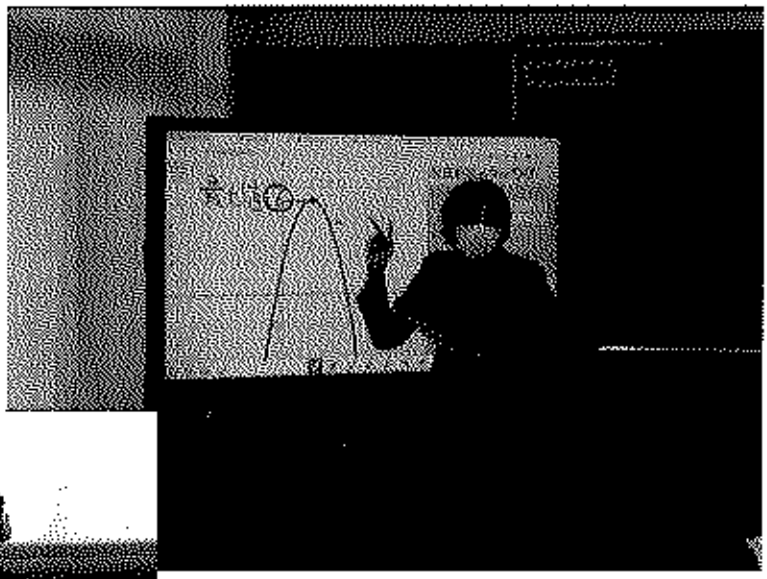
【小松先生】
・GRAPESは先生用？生徒も使える？（<使える。前回使わせようとしたが、できなかった。）

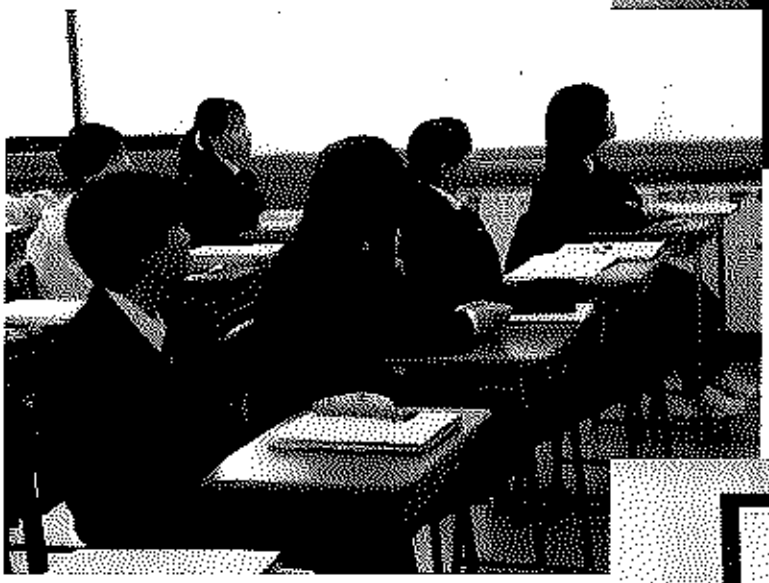
【菅原先生】
・数学のWeb上のソフトがようやく一般化して、一人ひとりが活用できるようになってきた。
・場所・機材が変わると使えない恐ろしさもある。

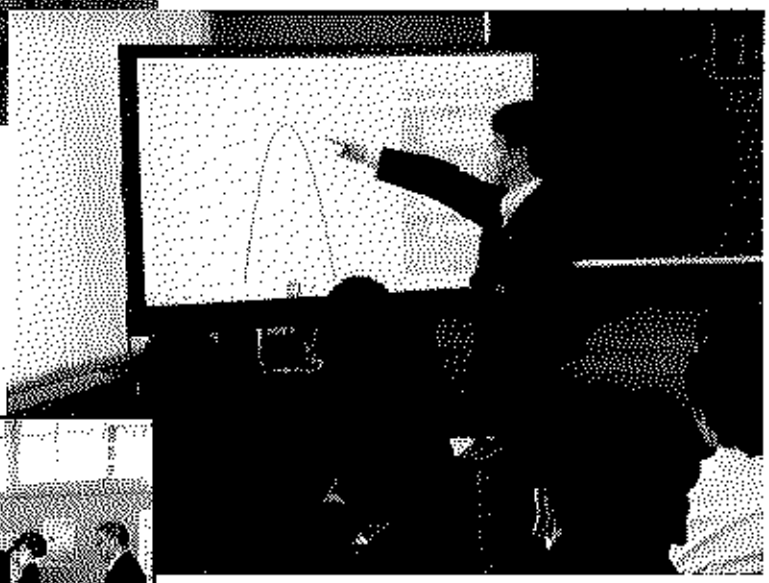
【佐藤先生(高瀬小)】

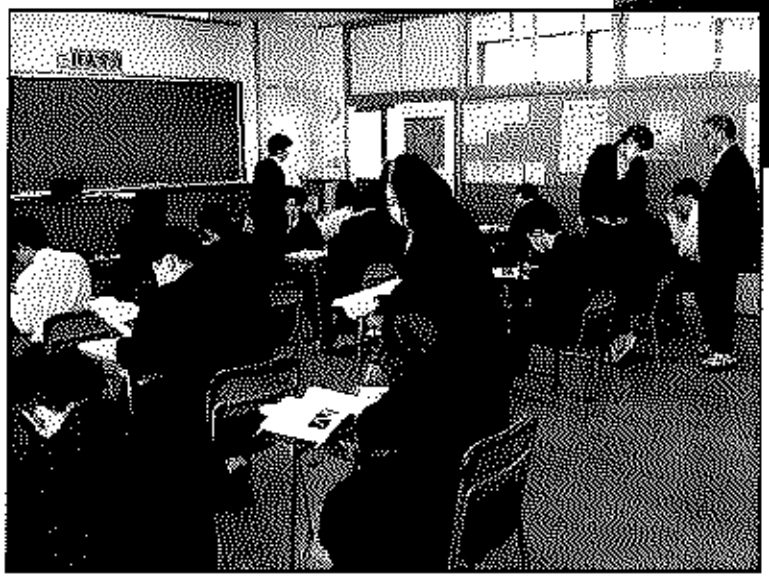
・小学校ではロイロノートやFigJamを使っているが、高校でも使ってる？（←FigJamは使っている。）

―― 授業風景 ――









令和６年度　公開授業研究会　商業科研究協議会　　１５：５０～１６：３０（図書室）

授業者　佐　藤　悠　也
司　会　照　井　雅　孝
記　録　佐　藤　郁　子
参加者　高　橋（湯沢翔北）、高　城（湯沢翔北）
栗　林、佐藤大、松　井、冨　谷

1　授業者(佐藤悠)から感想・課題等

・もう少しゆっくり進めたかったがかなりハイテンポで進んだ。生徒の雰囲気や反応もよくやりやすい環境だった。
・まとめの時間を取れなかったので８０％くらいの出来かなと思う。先生方にご意見賜りたい。

2　授業参観者から感想・質問・意見等

・栗林：ＩＣＴ活用ではあるがアナログとデジタルを融合させる授業で良かったと思う。
最後の答え合わせをグーグルフォームで配信してみんなに見えるようにしたらどうだろう。
座り方も横並びでグループで周りの友達の意見も見えて良いと思う。題材とか例の出し方も身近なもので生徒が考えやすかったと思う。

・佐藤大：商業の授業は初めて見たが専門用語など戸惑った。
生徒が意外にしっかり発言していて安心した。武田まほ基準で進んでしまうが理解していない生徒を助ける手立てがあっても良かったのでは？ICTとアナログの（ボード）の組み合わせも勉強になった。

・松井：商業の授業を初めて見たが積み重ねの教科だというのを実感した。どこかでつまずくと先に進めなくなる教科だということも感じた。クラスの雰囲気も良かった。
話し合い活動やアナログの要素が良い感じで出ていた。見ていて面白いと思う授業だった。興味を惹かれた。実生活にフィードバックできる内容だった。

・冨谷：わかりやすい流れになっていた。最初に予想を立てて最後に学んだ知識を役立てて答え合わせになるというのも面白かった。

・佐藤郁：楽しかった。言葉（用語）を理解するのが難しい生徒はついていっているのか気になった。
生徒が生き生きしていた。

・高城：すごく雰囲気が良かった。先生の、生徒に文章として答えさせようという気持ちが見えた。
生徒たちの意見を聞きながら進めていくというのが新鮮だった。最初に撒いておいたものが後半で活かせるという”伏線回収”が出来ていた。授業展開も参考になる。
Ｑ、専門用語をわかりやすく噛み砕いているので時間がかかると思うがゴールをどこに設定しているのか？
→Ａｎｓ：検定は２月に３級取得を目指す。授業を録画してクラスルームにあげて参考にさせる。
（常に授業は録画している）

・高橋：生徒の反応が良くて感動した。特に電卓テクニックに反応が良かった。ホワイトボードの図がイメージしやすかった。最初の問いに最後の回収、という部分が見事だった。素晴らしい授業だった。
Ｑ、電子黒板について（使い方）
→Ａｎｓ：情報処理室の電子黒板に直接書いて保存できる。印刷（USBに入れて）できる。

3　今後のＩＣＴ活用のあり方について（活用方法、課題、展望など）

・佐藤悠：授業風景を撮影して、休んでいる生徒や理解が不十分な生徒が、ユーチューブを使って自

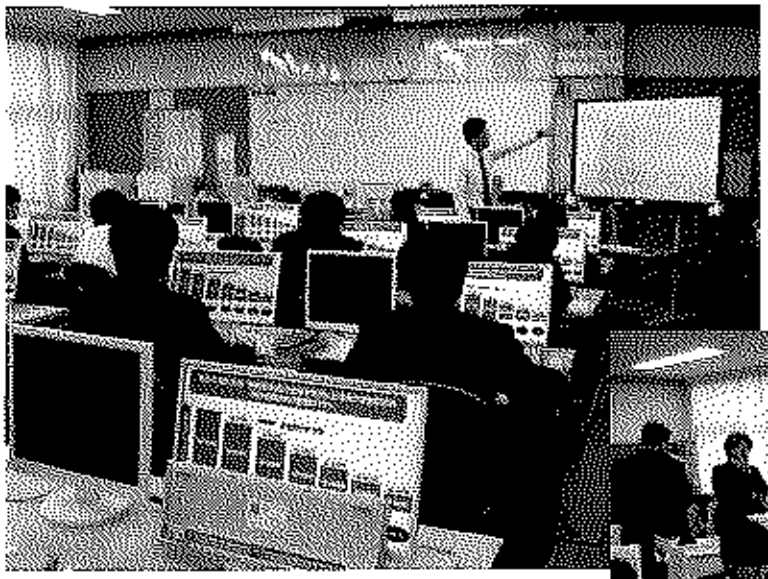
宅で学習できる。
Ｑ、ＩＣＴ機器を使ったときと使わないときの定着割合はどちらが高い？
→Ａｎｓ：使わないほうが定着率が良い。

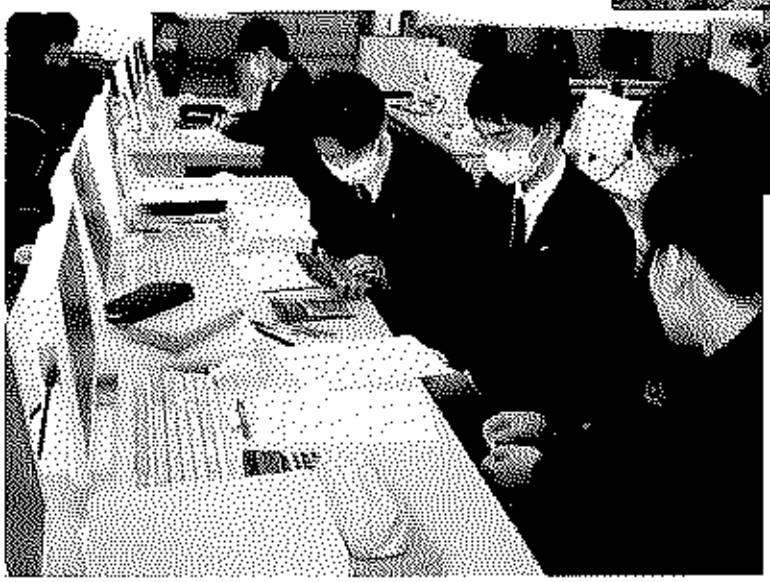
・高橋：同感。機器を使うことで生徒がわかったような気になっていることがある。
・解答用のプリントを配布し、何回も問題集の問題を解くことにより定着を図っている。

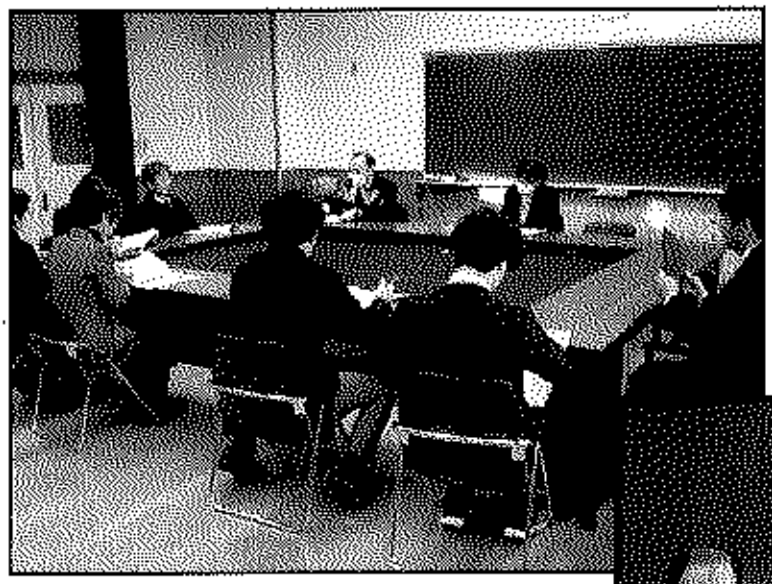
※矢島高校：佐藤文明より

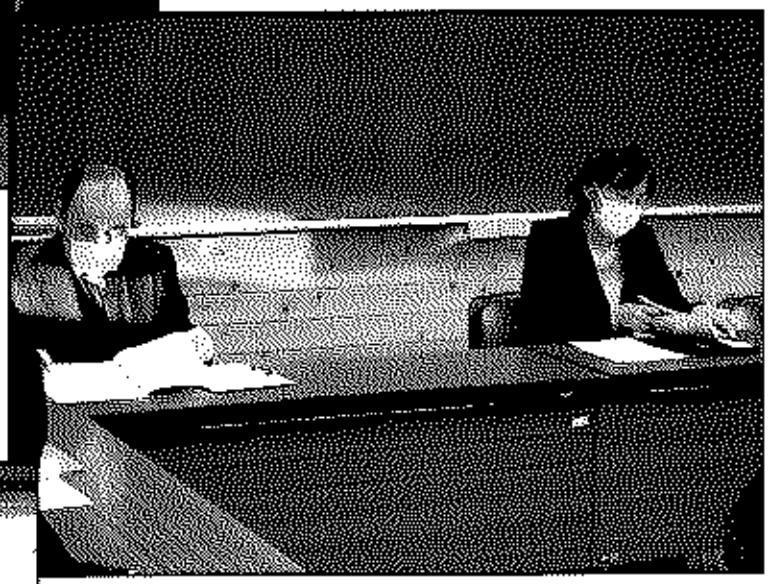
・グループ学習でも自由な意見を出させて、間違っていたとしても否定することなく尊重していたのが良かった。考えさせる時間がもう少しあってもよかった。何が大事であるかということをもっと端的にしてもよいのではないでしょうか。
・生徒の小さい声でもすぐ拾ってあげる姿勢を見習いたいと思います。
・新たな電卓の活用方法について、生徒が興味を持っていたのはとても新鮮に感じました。
・実物投影機を使用して、各グループのミニボードの答えを写すと、後ろの席でもしっかり見ることができるのではないでしょうか。
・タブレットやパソコンを使うのであれば、問題をそれに流して解かせるのもよいと思います。

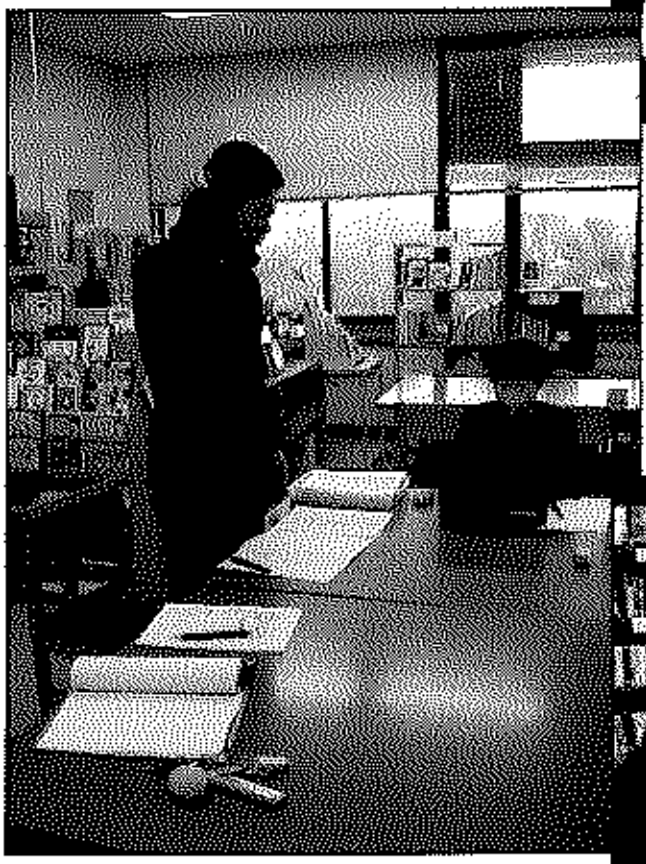
－－　授業風景　－－

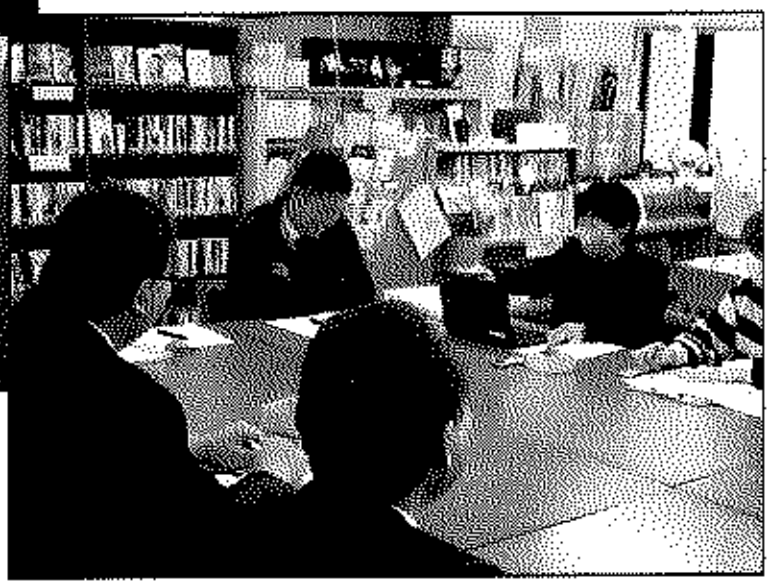












3　研修講座

・Ａ講座

実践的指導力向上研修講座（８年目）
高等学校新任学年主任研修講座
高等学校新任道徳教育推進教師研修講座

・Ｃ講座

A講座－１７

実践的指導力向上研修（８年目）

教　諭　　松　井　智　彦

１．はじめに

採用８年目となり、改めて初任者研修や３年経過研修の資料を開いてみた。当時、経験豊富な先生方の授業を尊敬の念を抱きながら拝見させていただいたことを思い出した。自分はこの８年で追いつけただろうか。これからも時折、振り返りながら精進していきたい。また、講師の頃には経験できなかった担任、分掌業務などに携われるようになり、忙しいながらも新鮮で充実した毎日を過ごしている。その中で出会った多くの生徒や保護者、先生方、地域の方々とのかかわりを通して、人としても、教員としても育ててもらったことに感謝している。

２．研修内容

(1)実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅰ（令和６年６月２１日、教育センター）

今回の研修は①いじめや不登校の未然防止と対応　②教育活動全体を通じたキャリア教育　③学校組織の一員として－自己理解に基づく目標設定－の３点について研修を受けてきた。

①では、いじめや不登校の定義について改めて理解を深めることができた。特に不登校生徒の未然防止として常日頃から生徒の観察を注意深く行い、情報の「管理」「引継ぎ」「共有」が重要である。

②では、キャリア教育の評価についてアウトプット評価（どのような活動をどの程度実施したか）とアウトカム評価（実施した結果、どのような成果がみれたか）について理解を深めた。今後のキャリア教育の評価には、アウトプット評価を基盤としたアウトカム評価を行うことが必要だと感じた。

③では、教職員として自分の力量分析に基づいた能力開発の必要性について理解を深めた。自己の弱みや強みを自己分析することで、今後の自分の成長への努力を見出すことができた。

(2)実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅱ（令和６年７月２４日、教育センター）

今研修では指導案を作成し、VTRを拝聴しながらカリキュラム・マネジメントを意識した授業づくりという点において他教科の先生方と協議をする形式となった。カリキュラム・マネジメントという言葉は知っていたが、詳しいことはわかっていなかった。研修を通じて授業の中での取り入れ方や考え方について理解を深めることができた。

３．今後に向けて

生徒を取り巻く環境や法整備など多くのことが刻々と変化している。今回の研修を通じて、改めて日々最新の情報を得ていく必要性を感じた。また、今後中堅教員として働くことになるが、カリキュラム・マネジメントなど学校の教育活動全体を意識した授業づくりや指導などを実践できる教員となっていきたい。

A講座－３４

高等学校新任学年主任研修講座に参加して

教　諭　　小　松　千　明

１．新任学年主任研修講座Ⅰ

（１）期　日　　令和６年５月２８日（火）

（２）場　所　　秋田県総合教育センター

（３）内　容　　＜講話＞望まれる学年主任像と学年主任の役割

＜実践発表＞学年経営の実際

＜講義・演習・協議＞学年経営と組織マネジメントの基礎

（４）まとめ

学年は、「チームとしての学校」を実現させるための組織の一つであり、学年経営には組織マネジメントの視点で取り組むことが必要である。個人が単独でできないことに、チームとして対処していくための調整を行っていくことが学年主任の役割の一つである。学年の生徒を前にして、日々の業務に唯一の正解はなく、その実態やその時の状況に応じて対応していかなくてはならない。そのために、学年の職員間での共通理解・情報共有を密に図りながら、共通の目標に向かって全職員で取り組んでいくことが重要である。

２．新任学年主任研修講座Ⅱ

（１）期　日　　令和６年６月２７日（木）

（２）場　所　　秋田県総合教育センター

（３）内　容　　＜講義・演習＞生徒指導における学年主任の役割

＜協議＞学年経営における課題への対応

＜講話＞思春期の揺れと成長を共に歩む

（４）まとめ

生徒指導に関しては、自分が"普通"と思っていることが、相手の"普通"とは異なっており、自分の言葉が相手にどう伝わっているか確認することが必要である。いじめや不登校等の問題行動や保護者対応など、生徒指導関連の業務には多岐に渡るが、問題行動の未然防止や早期発見、対処や指導の過程においては、生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら、素早く、慎重に、誠意を持って組織的に対応していかなくてはならない。学習と同様、生徒指導も生徒の状況に応じて「個別最適化」を目指していかなくてはならず、更に思春期特有の特徴や社会情勢、時代の流れ等も把握しておく必要もある。生徒の様子に目を配るだけでなく、常に知識や情報をアップデートしつつ、生徒が将来、社会的に自立していけるような支援を目指して努力していきたい。

A講座－４０

高等学校新任道徳教育推進教師研修講座に参加して

教　諭　　栗　林　幸　悦

１．概　要

日　時　：　令和６年７月３日（水）　１０：００～１６：００
場　所　：　秋田県総合教育センター

２．研修内容

①道徳教育推進のための取組（実践発表）
　秋田県立横手清陵学院高等学校　教諭　沼倉　健　氏による事例発表

②道徳教育の今日的な課題と推進のための取組（講義・演習）
　道徳の特別の教科化の背景、道徳教育の確認、高等学校における道徳教育、
　道徳教育の充実に向けて

③公開講演「道徳教育推進上の課題と道徳教育推進教師の役割」
　十文字学園女子大学　教授　浅見　哲也　氏による講演

④道徳教育推進に向けた課題と改善策の具体化（協議・発表）
　各学校の取組と課題の共有、課題解決に向けた取組に関する協議と発表

３．まとめ

本校では例年、地歴公民科教員が道徳教育推進教師を務めることになっており、今年度は科の教員が１名しかいないため、私が務めることになった。私は初めてこのような研修に参加した。前任校では道徳の授業を高等学校でも年１回実施していたが、クラス単位の授業であり、私自身クラス担任ではなかったため、まだ授業を行った経験はない。ちなみに、本校では今年度道徳の授業はまだ行っていない状況である。

私自身の取組としては、地理歴史公民科の教員として１学年の公共の授業の中で、道徳の内容を取り扱う場面があるが、年間授業計画のほんの一部に過ぎず、本格的な取組とは言えない。

研修では、各校の道徳教育年間計画を比較し、各校の指導計画のよいところや自校の計画について改善が必要なところなどを洗い出すことができ、またそのことを互いに共有することができた。また、協議や発表を通して、学校現場における道徳教育の課題を再認識し、その課題にどのようなアプローチが必要かアイデアを出した。この協議において、キャリア教育の中に道徳教育の要素を盛り込むという案が出された。すぐに実践できそうなことであり、早速次年度の年間計画作成に活かしていきたい。

この研修を通して、道徳の授業をすることだけが道徳教育ではないと感じた。授業はあくまでも道徳の実践の場の一つに過ぎず、学校におけるさまざまな教育活動が道徳の実践の場であると考える。活動の中に道徳教育の視点を置いた上で、生徒が他者と協働して得られた経験は、経験を共有したり意見交換を行うことで、より適切な行動に向かう力を持つことにつながり、道徳教育の重要性が一層増していくだろう。

４　令和６年度
普通科デジタル探究コースの取り組み

令和６年度　普通科デジタル探究コースの取り組み

デジタル探究委員会

１　はじめに

秋田県で実施されている「デジタル教育　未来へＲＵＮプロジェクト事業」も今年度、３年目となり、本校からこのコースの初の卒業生を出すこととなった。

本校では、ＤＸを推進する担い手としてデジタル人材の重要性を踏まえて、デジタル技術に関わる事柄に対して興味・関心を高め、これからのデジタル社会を生き抜くための基礎・基本的な知識や技術の習得を図ることを目指して、新科目「デジタル情報」や新教科「デジタル探究」を設定して実施してきた。

①学校設定科目「デジタル情報」（３単位）

１年次の「情報Ⅰ」の授業に加えて、外部講師によるデジタル機器やプログラミング等に関する講話・講演や実技・実習を実施している。

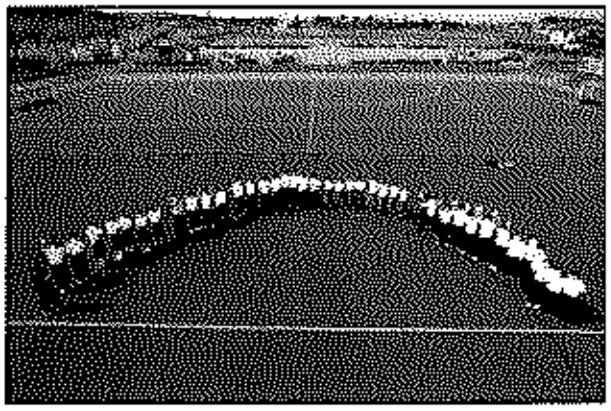
②学校設定教科「デジタル探究」（４単位）

「総合的探究の時間（羽後学）」において、大学生とのオンライン交流や短期留学を通して、ＩＣＴ機器やデジタルの知識・技術を積極的に活用して、問題・課題の発見や解決策の考察、プレゼン能力の向上などを図っている。

２　今年度（Ｒ６）の取り組み

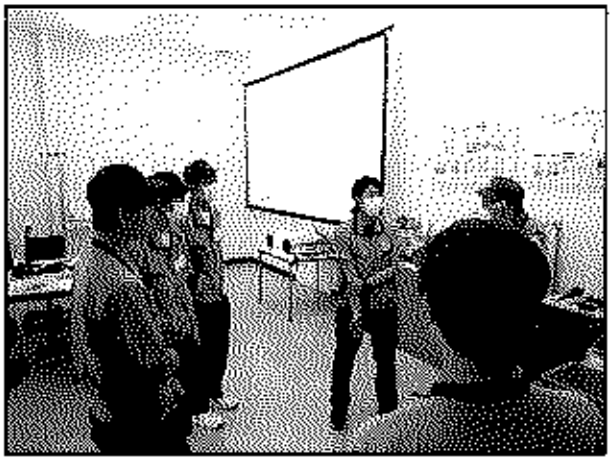
（１）日　時：６月７日（金）　５・６校時
テーマ：羽後学①「自ら学びをつくることとは（ＺＯＯＭの活用）」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　長谷部葉子研究会　学生６名
（オンライン参加２名）
内　容：１・２年生合同で、「羽後学」で実施する活動内容等について考える。タブレットや電子黒板を用いてＺＯＯＭの接続のしかたを学習した。

（２）日　時：６月１１日（火）　５・６校時
テーマ：「建設業でのデジタル技術の活用について」
講　師：（株）小野建設　小野　人平さん　実技指導：小野建設、柴田組、佐藤建設より
内　容：講話…建設業界におけるデジタル化の進展についての講話。
実技…校庭にてドローンの操作体験　（すべての生徒が操縦体験）



（3）日　時：６月２１日(金)　５・６校時
テーマ：羽後学②「自分の個性を理解し、相手に伝えよう」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　准教授　長谷部葉子先生、学生４名（オンライン参加４名）
内　容：現在の自分がどのような個性・魅力を持っているかを他の人に伝える。リフレーミングすることで自己肯定感の向上を図るとともに協調性を養うことができた。
（Zoomの活用グループ切り替え）

（4）日　時：夏休み中
テーマ：２年生のデジタルインターンシップ
実習先：６事業所19名が参加



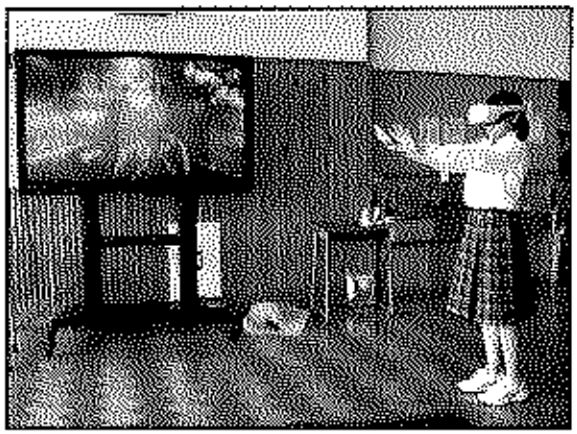
（5）日　時：８月２３日(金)　６校時
テーマ：羽後学③「自分の人生を振り返り、相手に伝えよう」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生４名（オンライン参加数名）
内　容：過去の自分を見つめ、ライフチャートを共有しながらグループ内で発表する。フィードバック等を行った。

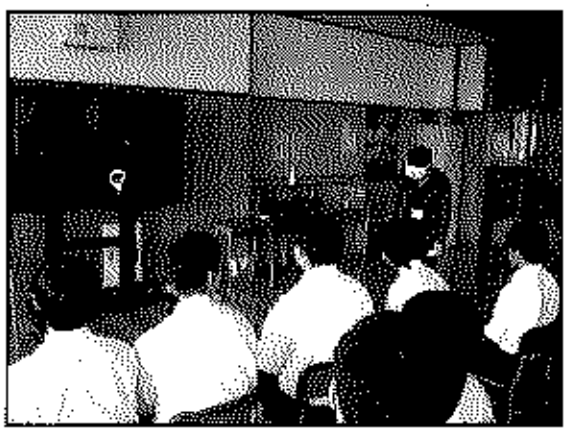
（6）日　時：９月８日（金）５・６校時
テーマ：羽後学④「自分の人生を整理・分析し、自分の価値観(軸)を構築しよう」

講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生５名（オンライン参加数名）
内　容：未来の自分をイメージし、自分の価値観を元に理想の将来像を描く経験をした。

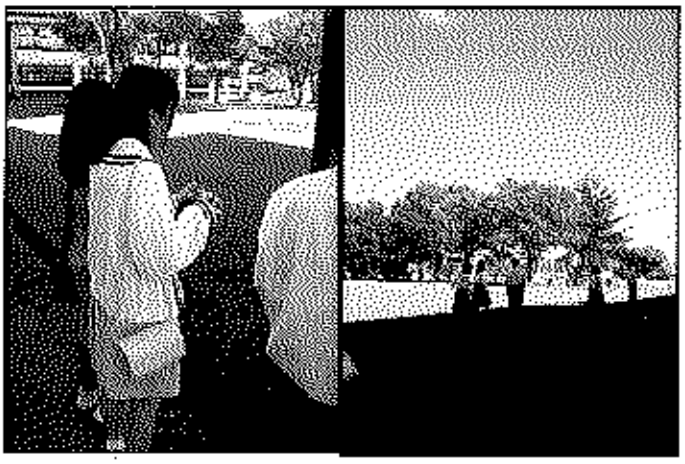
（７）日　時：９月１３日（金）５・６校時
テーマ：羽後学⑤「過去・現在・未来の自分を整理し、自分の価値観（軸）を定めよう」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生３名　（オンライン参加数名）
内　容：前半のまとめとして、過去・現在・未来のそれぞれの自分の姿を統合し、自分の価値観を元に理想の将来像を描くことができた。

（８）日　時：１０月３日（木）　２・３校時
テーマ：「ＶＲゴーグルの活用について」
講　師：デジナーレ情報学研究所
　　菅野侑華さん　他１名
内　容：ＶＲゴーグルの設定のしかた等を習得し、仮想空間を体験した。

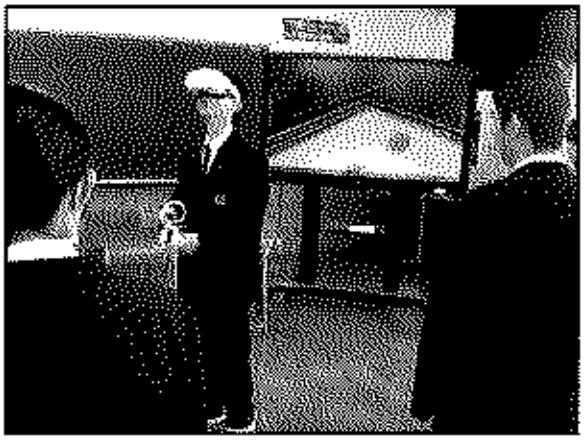


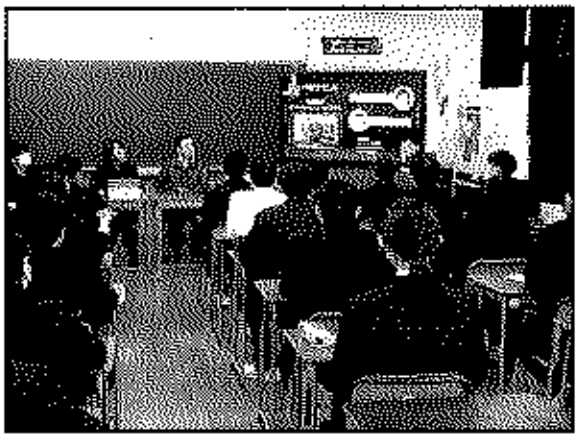


（９）日　時：１０月１４日（土）　文化祭一般公開
テーマ：ドローンの操縦やＶＲゴーグルで仮想空間の体験をしよう
内　容：屋外でドローンの操縦体験や、屋内のフリースペースでのＶＲゴーグルによる仮想空間体験を実施した。どちらも多数の方々に体験していただいた。



(10) 日　時：１０月２２日(火)　５・６校時　　テーマ：「メタバース・ＶＲについて」
講　師：デジナーレ情報学研究所　菅野侑華さん　他１名
内　容：メタバースやＶＲとは何か、どのように活用されているか等、誕生から現在に至る世界各国や日本の状況について学習した。後半は、ＶＲゴーグルを用いて仮想空間を体験した。

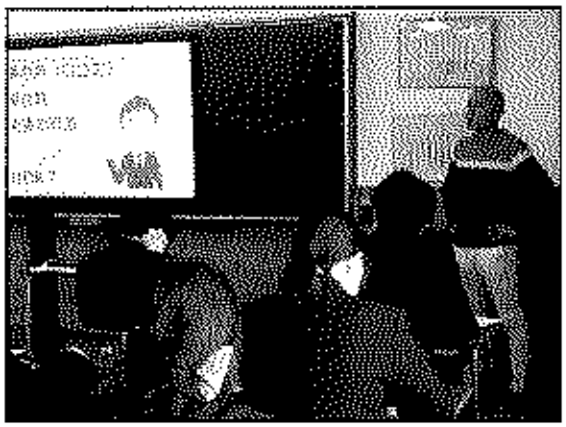




(11) 日　時：１１月１日(金)　５・６校時
テーマ：羽後学⑥「過去・現在・未来の自分を整理し、価値観を言葉として発表し合おう」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生１名（オンライン参加数名）
内　容：自分の価値観についてまとめたワークシートを元に、各グループ内で発表という形で自分を表現するとともに、自己認識を深めた。

(12) 日　時：１１月８日（金）　５・６校時
テーマ：羽後学⑦「ＳＦＣの大学生の価値観(世界観)に触れ、好奇心を刺激しよう」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生３名（オンライン参加数名）
内　容：各大学生がなぜ大学進学という進路を選んだのか、過去に体験・経験した事柄や将来、目指そうとしている事柄を含めてディスカッションした。

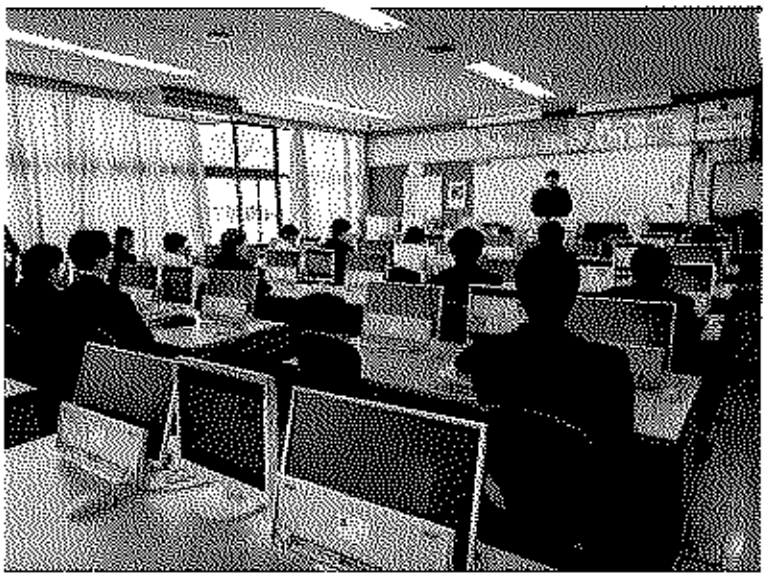
(13) 日　時：１１月１２日(火)　５・６校時
テーマ：「Ｗｅｂの作成について」
講　師：デジナーレ情報学研究所
飛塚　嗣公さん　　他１名
内　容：Ｗｅｂサイトを作る上での注意点や、より検索してもらうためのＷｅｂページの作成のしかたについて学習した。後半はトップページのデザインを実際に考え作成した。



ＳＦＣ宿泊研修
日　時：１１月２７日(水)～２９日(金)
場　所：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（ＳＦＣ）
テーマ：「未来で輝く花となれ」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　准教授　長谷部葉子先生　学生多数
内　容：２７日(水)…バス移動、オープニングセレモニー
２８日(木)…キャンパス探検、講義の聴講、長谷部葉子研究会の授業参加
成果物の作成、大学生とのワークショップ
２９日(金)…最終発表会、クロージングセレモニー、バス移動
実際にＳＦＣを訪れキャンパスを見学したり、今まで体験・経験したことのない大学の講義の一部聴講など、自分と異なる価値観に触れることにより、今後の自分のあり方や将来の進路選択のしかたをじっくり考える機会となった。ま

た、大学生との交流を通して、一人一人の個性の大切さやグループ活動における協調性の大切さなどを感じ取ることができた。このＳＦＣ研修を通じて生徒たちの表情が大きく変わったことが大きな収穫であった。

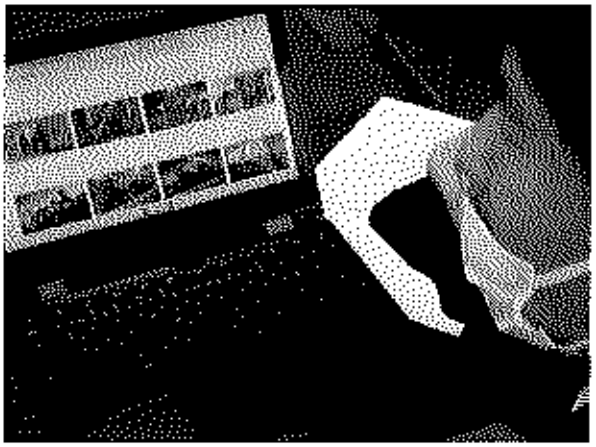
(14) 日　時：１２月１３日(火)　６校時
テーマ：羽後⑧「改めて自分の興味を見出し、マイプロジェクトを作る」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生４名（オンライン参加数名）
内　容：ＳＦＣ研修で新しい環境や多様な大学生に出会ったことで広がった人生の視野や挑戦意欲を元に、自分なりの関心を実践して形にする一歩目を踏み出す、という「やってみる」を考えた。

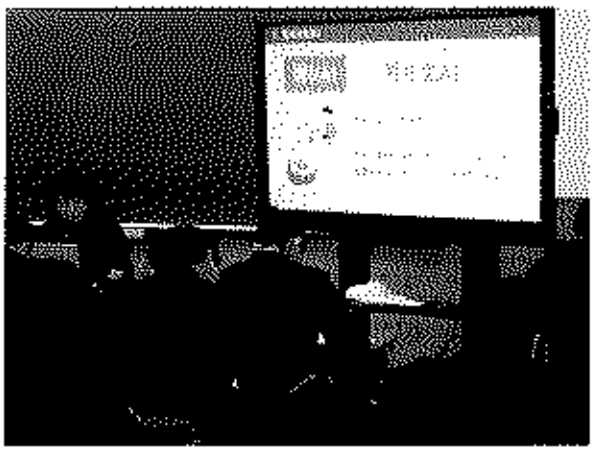


(15)
日　時：１月１０日(金)
テーマ：「Python講座によるプログラム作成」
講　師：デジナーレ情報学研究所
岡田達也さん　他２名
内　容：・基本的な書き方①
(print文,変数など)
・基本的な書き方②
(if文,ライブラリなど)
・Colab Turtleによる画像の描画
・画像判別プログラムの作成

(16) 日　時：１月１７日(金)　５・６校時
テーマ：羽後学⑨「この１年間の羽後学・ＳＦＣ研修・冬休み課題のまとめと自己実現に向けた来年度の行動プランの設定」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　　学生２名（来校）
内　容：この１年間の羽後学・ＳＦＣ宿泊研修等を振り返る。現時点で自分はどんな人間になりたいのかを言語化した。また来年度の取り組みについて考えた。

(17) 日　時：１月２１日（火）
５・６校時
テーマ：「ＡＩについて」
講　師：デジナーレ情報学研究所
菅野侑華さん　他１名
内　容：ＡＩとは何か、ＡＩの分類や活



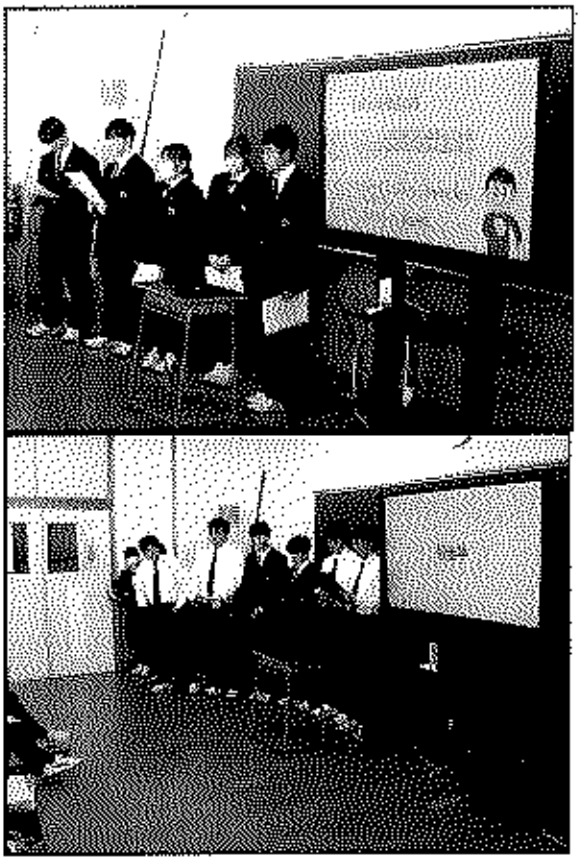


用事例等ついての講話と、実際にＣｈａｔＧＰＴや画像生成ＡＩを活用してイラスト生成を体験した。

(18) 日　時：1月31日(金)　5・6校時
テーマ：羽後学⑩「最終発表会の準備と自己実現に向けて」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ　学生２名（来校）
内　容：これまでの自己探求を踏まえ、「自分らしさ」、「今年一年での変化・成長・学び」をまとめた。

(19) 日　時：2月21日(金)　5・6校時
テーマ：「1・2年生による羽後学発表会」
講　師：慶應義塾大学ＳＦＣ
准教授　長谷部葉子先生、
学生１１名（来校）
内　容：5校時…1年生が「自分らしさ」について、自分自身の過去と現在、そして未来の理想像へのつながりについて、8グループに分かれて発表した。

6校時…2年生が地域課題探求として地域貢献・地域活性化を図るべく事柄について、①商品開発班、②観光班、③福祉班、④記事班、⑤ＰＲ動画班の5つに分かれて、それぞれスライド等により発表を行った。



発表後は、慶應義塾大学ＳＦＣの長谷部先生や羽後学のサポートをしてくれた大学生の方々からたくさんコメントをいただいた。

――羽後学発表会風景――

３　今年度の活動を振り返って

１年生の「デジタル情報」では、日々進化しているデジタル技術に合わせて、昨年度の内容に＋αした形で講義・講習や実践・体験活動が行われた。建設業でのデジタル技術の活用では、無人の建設機械による現場作業やドローンによる画像を元にした仮想的な設計図の作成などの講義があった。また、ＶＲゴーグルによる仮想空間の体験や、画像生成ＡＩによるイラストの生成体験などでは、生徒全員が体験しデジタル技術の素晴らしさを実感するとともに、将来に向けて前向きな感想を述べていた。

２年目を迎える２年生は、昨年度に引き続き、１年次に学習した内容等を文化祭で披露するためのデジタル探究ブースを開設し、「ドローンの操縦体験」と「ＶＲゴーグルでの仮想空間体験」を行った。来場者の皆さんにわかりやすく教えられるように、ドローンやＶＲゴーグルの操作方法等を調べ、それぞれプリントを作成し、それを元に操作方法を教授していた。各コーナーとも数十名の体験参加があり大盛況であった。

３年生は、ｅスポーツ大会の実施運営を行い大盛況であった。また、１・２年次に学習した内容を元に、各自テーマを設定して課題研究に取り組み、スライド等にまとめた。残念ながら調査・研究に対する指導や時間が足りず、きちんとしたものにならず、１・２年生に向けた発表会を実施することができなかった。しかしながら、生徒らは個々に調査・研究した活動内容に対して十分に満足していたようだった。

生徒らには、これからもどんどん進むデジタル技術に対して臆することなく、知識や技術を身につけられるよう、突き進んでいってもらいたい。

編　集　後　記

多くの先生方より研修の成果を寄稿いただき、令和６年度の「研修集録」を完成することができました。今年度も校内外、各種さまざまな研修が実施されました。研修というと以前は、紙媒体のレジメや資料を用いて一堂に会して行われる集合対面型の研修がほとんどでしたが、最近は資料等もデジタル的なものを用いて、学校内にいながらオンラインによって行われる研修が増えてきました。また、いつでも空いている時間を利用して視聴できるＷｅｂ動画による研修・講習を活用する教職員も多く見られ、研修の実施形態等もだいぶ様変わりしてきました。

ＩＣＴ機器（タブレットや電子黒板等）の活用による授業改善については、個々の生徒のスキルアップやグループでの情報共有・話し合いの場においてタブレットが有効に活用されており、今ではなくてはならないものになっています。今後ともＩＣＴ機器の活用については、より良い授業改善を図るべく（アナログ的なものも含めて）、前向きに活用方法を探っていかなければならないかと思います。

最後に、この「研修集録」が今後の教育活動の一助となれば幸いです。

令和６年度　研修図書・情報部

令和６年度

研　修　集　録

発　行　令和７年３月
秋田県立羽後高等学校